

本会議における手話通訳について

1 鳥取県議会の状況 【H27.11.10 議会運営委員会県外調査】

(1) 経緯

①H23. 12 鳥取県障害者施策推進協議会の委員から意見

障がい福祉課が所管する鳥取県障害者施策推進協議会の委員からの「障がい者の支援に関する施策」についての意見

県議会などのライブ中継を視聴するときに、私たち聴覚障がい者は情報保障ができていない状況である。リアルタイムで情報取得保障ができる環境整備を求める。

②H24. 2 議会改革推進会議において協議

本会議中継の映像中に手話通訳の映像を挿入するための整備を進めることとする。

(2) 方法

①別室で手話撮影を行い、それを本会議中継の映像に挿入する方法で実施
傍聴席では、大型スクリーンでの表示とタブレットの貸し出し



②手話通訳の派遣は、公益財団法人鳥取県聴覚障害者協会に業務委託

派遣人数 2～4人/日

費用 手話通訳者通訳料、旅費、派遣コーディネーター料

(3) 経費

①機器等整備費 306千円（H24年度）＝イニシャルコスト

ビデオカメラ、スクリーン、映像混合器、モニタ等

②手話通訳経費 2,677千円（H26実績額）＝ランニングコスト

2 都道府県における本会議の手話通訳導入状況（H26. 10調査）

5団体（東京、茨城、山梨、鳥取、熊本）